災害への備えは万全ですか？

これから秋にかけては台風や前線の影響で、大雨・洪水・暴風など、自然災害が発生しやすい季節です。いざという時のために、日頃から早めの備えや対策を心掛けておきましょう。

近年、局地的な大雨などにより、全国各地で豪雨災害が多発しています。令和元年10月の台風19号の豪雨では、極めて広範囲にわたり河川の氾濫や崖崩れが発生し、古河市でも利根川の水位が氾濫危険水位を超えて、堤防が決壊する恐れがありました。

行政による防災対策の強化は重要ですが、突発的に発生する災害への対応には限界があり、住民主体の防災対策を推進していくことも必要です。住民一人一人が「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、普段から災害リスクや避難行動について考えたり、自分の判断で適切に避難したりすることが求められています。

▲①②：令和元年台風19号通過後の河川の様子
【提供】利根川上流河川事務所

「逃げ遅れゼロ」を目指して

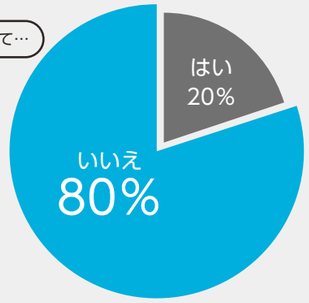
今年の5月に災害対策基本法の一部が改正され、市が発令する避難情報がより分かりやすいものに変わりました。まだ何も起きていなくても、それぞれの状況によって早めに避難を始める勇気を持つことが大切です。台風などによる風水害は、地震による災害と違って避難をするまでに時間的な余裕があり、早めの避難が命を守ることにつながります。

災害への備えとして、まず自分の住んでいる地域の災害リスクを把握しておくことが必要です。市では、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域や、避難所等の情報を記載した「古河市洪水ハザードマップ・ガイドブック」を発行しています。このハザードマップを活用し、自然災害が起こる前から避難先や避難経路などを考え、いざという時に慌てずに行動できるよう備えておきましょう。

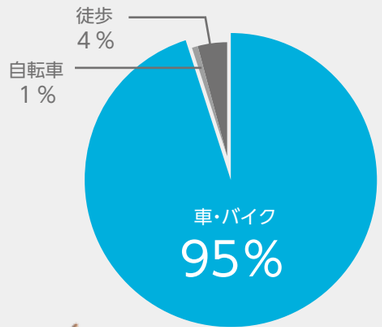
また、警戒レベルごとに取るべき行動を、一人一人が事前に考え決めておく「マイ・タイムライン」を作成することで、安全に避難行動を取ることができ、逃げ遅れのリスクが軽減されます。前もって家族みんなで作成しておきましょう。

Q 浸水想定エリア内に住んでいる人で、水害時のマイ・タイムラインを作成しましたか？

消防防災課　井樋係長



Q 避難の移動手段は何を考えていますか？



9割の人たちが車で避難するため交通渋滞が予想されます
そのため「警戒レベル3(高齢者等避難)」の時点で避難しましょう！

消防防災課　高野主事

出典：防災・防犯メール登録者を対象とした令和3年度古河市防災意識調査結果(506人が回答)